

## 令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立墨田工業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、  
主幹教諭(進路指導担当)、工業4科代表 計7名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)  
学識経験者(元大学教授)、PTA会長、近隣中学校長、近隣町会副会長、同窓会長、同窓会幹事長、  
近隣消防署出張所長 近隣警察署生活安全課担当 計8名

### 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他  
第1回 令和3年6月末 内部委員7名、協議委員7名 文書による開催  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、令和元年度学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明、意見交換  
第2回 令和3年11月末 内部委員7名、協議委員7名 文書による開催  
授業公開、学校評価アンケート実施についての協議  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討  
第3回 令和4年2月末 内部委員7名、協議委員7名 文書による開催  
学校評価アンケート実施についての報告  
協議委員からの教育活動に対する意見
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他  
第1回 令和3年11月末 内部委員2名、評価委員2名、事務局長 文書による開催  
学校評価の基本方針の確認、令和3年度学校評価アンケートの内容検討  
令和3年度学校評価の実施に向けた検討  
第2回 令和4年2月末 内部委員2名、評価委員2名、事務局長 文書による開催  
学校評価アンケート実施についての報告

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点  
「教育活動への満足度」「資格取得・ものづくりへの意識」「学校施設の状況」の観点で実施。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・12月 全校生徒 対象：459人 回収：315人 回収率：68.6%
  - ・12月 保護者全員 対象：459人 回収：61人 回収率：13.3%
  - ・12月 地域・住民 対象：20人 回収：4人 回収率：40.0%
  - ・12月 教職員 対象：52人 回収：48人 回収率：92.3%
- (3) 主な評価項目
  - ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。
- (4) 評価結果の概要
  - ・生徒84%、保護者87%が、授業の内容が分かりやすく、充実していると回答した。
  - ・生徒85%、保護者84%が、ものづくりに興味・関心を持つようになったと回答した。
  - ・生徒94%、保護者86%が、入学してから挨拶をよりよくするようになったと回答した。
  - ・生徒65%、保護者57%が、部活動により学校生活が充実していると回答した。
  - ・生徒87%、保護者89%が、資格取得に意欲を持つようになったと回答した。
- (5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言)
  - ・アンケート全般に良い結果となっている。しかし、学校をあまり評価していない回答も大事である。少数の声であっても丁寧に拾い上げて、改善していくことこそ大切なことと考える。
  - ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞くとともに、教科担当者が指導計画、評価等について更に説明を行うことが大切である。
  - ・評価結果では、生徒・保護者とも概ね挨拶をよりよくするようになったと回答した。保護者の数値も

前年度より上がっている。本校の特色である「元気の良い挨拶」を徹底させていく必要がある。

- ・進路結果について、就職率はもとより、就職先についても良好である。高校入試の願書受付前に就職先等の詳細な情報を公表して、募集対策に活かさないのか。
- ・今回の評価結果は、非常に建設的な回答が多かった。保護者等の意見を大切にし、この結果を保護者会で公表して議論する等、教育活動の改善に努めて欲しい。保護者会等の内容を精査し、内容の充実を図ることにより、保護者の参加を促進させることができると思う。
- ・電子申請を利用してアンケート提出及び集計方法を改善した。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### （1）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・多くの生徒を部活動に参加させ、全国大会出場を目指せる部活動を推進する。
- ・入試倍率を上げるための新たな取り組みが必要である。
- ・学校PRが足りない。充実した広報活動を行う必要がある。

##### （2）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
- ・募集対策について、同窓会やPTA等と連動して取り組んでいく。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

##### （1）学校運営

- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。

##### （2）学習指導

- ・ものづくりに興味・関心を持つようになった生徒が8割を超えた。

##### （3）特別活動

- ・部活動へ所属する割合は6割以上で、より多くの生徒を部活動に参加させる。

##### （4）生活指導

- ・生活指導については、今まで以上に保護者等との連携を強化した。

##### （5）進路指導

- ・就職内定率及び就職先と職種について、来校した中学生等に積極的に公開した。

#### 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

##### （1）協議委員人数 8人

##### （2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
	6				1	1

#### 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

今年度は協議委員との日程調整が難しく参加実績がなかった。今後は計画的に実施していきたい。

#### 8 その他

- ・学校評価アンケート等のマイナスの意見にも声を傾け、より良い改善を目指していく。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やす。